

解答は、すべて解答用紙に記入して必ず提出してください。

第219回簿記能力検定試験 問題用紙

上 級 原価計算

(令和7年7月13日施行)

注 意

- ・試験開始の合図があるまで、問題用紙は開かないでください。
- ・この試験の制限時間は、原価計算及び管理会計をあわせて1時間30分です。
- ・解答は、問題の指示にしたがい、すべて解答用紙の指定の位置に記入してください。
- ・解答用紙の会場コードは、試験担当者が指示した6桁の数字を頭の0(ゼロ)を含めてすべて書いてください。
受験番号は右寄せで書いてください。左の空白欄への0(ゼロ)記入は不要です。
受験番号1番の場合、右寄せで1とだけ書いてください。
受験番号90001番の場合、90001と書いてください。
- ・**氏名を必ず記入してください。**
受験番号・氏名を記入していない場合は、採点の対象とならない場合があります。
- ・印刷の汚れや乱丁、筆記用具の不具合などで必要のある場合は、手をあげて試験担当者に合図をしてください。
- ・下敷きは、机の不良などで特に許されたもの以外は使用してはいけません。
- ・計算用具(そろばん・計算機能のみの電卓など)を使用してもかまいません。
- ・解答用紙は、持ち帰りできませんので白紙の場合でも必ず提出してください。
解答用紙を持ち帰った場合は失格となり、以後の受験をお断りする場合があります。
- ・**簿記上本来赤で記入する箇所も黒で記入すること。**
- ・**解答は、必ず解答用紙に記入してください。**
- ・**金額には3位ごとのカンマ「,」を記入すること。**
ただし、位取りのけい線のある解答用紙にはカンマを記入しないこと。
また、カンマ「,」(数字の下側に左向き)と小数点「.」は明確に区別できるようにすること。

主 催 公益社団法人 全国経理教育協会
文 部 科 学 省
後 援 日 本 簿 記 学 会

第219回簿記能力検定試験問題

上級 原 価 計 算

解答は解答用紙に

問題 1 全経工業株式会社大塚工場は受注生産を行っており、原価計算システムとして実際個別原価計算を採用している。次の<資料>をもとに問1から問6に答えなさい。割り切れない場合、最終的な解答の小数以下第1位を四捨五入すること。

<資料>

1. 実際直接材料費（単位：円）

製造指図書	No. 1	No. 2	No. 2-2	No. 3	No. 3-2	No. 4
当月分	—	1,468,800	1,836,000	1,792,800	129,600	1,425,600

2. 実際直接労務費

(1) 実際直接作業時間（単位：時間）

製造指図書	No. 1	No. 2	No. 2-2	No. 3	No. 3-2	No. 4
鍛造部門・当月分	—	140	190	180	15	130
加工部門・当月分	160	105	165	145	10	—

(2) 当工場では職場ごとの実際平均賃率を採用している。当月の直接労務費の実際発生額は、鍛造部門が1,873,300円、加工部門が1,567,800円である。

3. 製造間接費の予算と実際発生額

(1) 当工場の年間の製造間接費予算は、鍛造部門が31,008,000円、加工部門が20,160,000円である。製造間接費は、予定配賦率に配賦基準の直接作業時間に乗じて各製品に配賦する。年間の予定直接作業時間は、鍛造部門が8,160時間、加工部門が7,200時間である。製造間接費予算や基準操業度は、月割りして毎月の原価差異の分析に利用する。

(2) 製造間接費の部門ごとの実際発生額（単位：円）

部門	鍛 造	加 工	動 力	工場管理
当月分	1,886,400	1,444,400	696,000	217,500

(注) 上記は第1次集計後の金額である。

(3) 補助部門費の配賦基準

部門	鍛 造	加 工	動 力	工場管理
電力消費量比	7	2	—	1
配置人数（単位：人）	8	10	2	2

(注) 第2次集計では各補助部門費（動力部門費と工場管理部門費）の実際発生額を、相互配賦法の連立方程式法で各製造部門（鍛造部門と加工部門）に配賦する。各補助部門費の配賦基準は各自判断すること。

4. 製造指図書

No. 1は、前月中に着手し当月中に完成している（前月繰越は2,985,200円）。No. 2は、当月中に着手し当月中に全品仕損となったものである。なお、仕損費の半額は正常な仕損、半額は異常な仕損として処理する。No. 2-2は、No. 2の代品生産のための指図書であり、当月中に完成している。No. 3は、当月中に着手し一部仕損が生じたが、補修し当月中に完成している。No. 3-2は、No. 3の補修のための指図書であり、正常な仕損として処理する。No. 4は、当月中に着手し来月中に完成予定である。

5. 仕損品評価額の総額は668,000円である。

- 問1 <資料>をもとに、鍛造部門と加工部門における当月の直接労務費の実際消費賃率を求めなさい。
- 問2 <資料>をもとに、鍛造部門と加工部門における製造間接費の予定配賦率を求めなさい。
- 問3 解答用紙の原価計算表を完成させるとともに、当月の完成品原価の金額と月末仕掛品原価の金額を答えなさい。
- 問4 <資料>における当月の製造間接費の部門ごとの実際発生額は、第1次集計後の部門費である。これらの部門費は2つの要素から構成されている。2つの要素の名称を答えなさい。
- 問5 <資料>をもとに、補助部門費の実際配賦後（第2次集計後）における当月の鍛造部門費と加工部門費を答えなさい。補助部門費の配賦にあたり自部門への用役提供は考慮しないこと。
- 問6 <資料>をもとに、当月の鍛造部門の予算差異と操業度差異、当月の加工部門の予算差異と操業度差異を求めなさい。なお、不利差異の場合は数字の前に△を付すこと。

問題2 次の<資料>をもとに問1から問3に答えなさい。材料の1個あたりの購入代価は、年間を通じて材料Aが720円／個、材料Bが680円／個である。割り切れない場合、最終的な解答の小数以下第1位を四捨五入すること。

<資料>

1. 材料副費の年間予算（単位：円）

検収費	保険料	引取運賃	購入事務費
564,000	324,000	414,000	648,000

2. 材料の年間予定購入数量（単位：個）

材料A	材料B
18,000	12,000

3. 材料副費の当月実際発生額（単位：円）

検収費	保険料	引取運賃	購入事務費
48,600	27,000	35,100	54,000

4. 材料の当月実際購入数量（単位：個）

材料A	材料B
1,580	1,120

- 問1 <資料>にあげるすべての種類の材料副費を材料の購入数量を用いて予定配賦した場合、当月の材料Aと材料Bの購入原価、および、当月の材料副費配賦差異を求めなさい。なお、材料副費配賦差異について、不利差異の場合は数字の前に△を付すこと。
- 問2 <資料>にあげる材料副費のうち、外部材料副費のみを購入数量を用いて実際配賦した場合、当月の材料Aと材料Bの購入原価を求めなさい。
- 問3 材料の購入原価に算入しない材料副費の処理について述べなさい。

問題3 操業度の意味を述べるとともに、基準操業度を設定する際の操業水準の種類を4つあげなさい。

解答は、すべて解答用紙に記入して必ず提出してください。

第219回簿記能力検定試験 解答用紙

上 級 原価計算

(令和7年7月13日施行)

注 意

- ・試験開始の合図があるまで、問題用紙は開かないでください。
- ・この試験の制限時間は、原価計算及び管理会計をあわせて1時間30分です。
- ・解答は、問題の指示にしたがい、すべて解答用紙の指定の位置に記入してください。
- ・解答用紙の会場コードは、試験担当者が指示した6桁の数字を頭の0(ゼロ)を含めてすべて書いてください。
受験番号は右寄せで書いてください。左の空白欄への0(ゼロ)記入は不要です。
受験番号1番の場合、右寄せで1とだけ書いてください。
受験番号90001番の場合、90001と書いてください。
- ・**氏名を必ず記入してください。**
受験番号・氏名を記入していない場合は、採点の対象とならない場合があります。
- ・印刷の汚れや乱丁、筆記用具の不具合などで必要のある場合は、手をあげて試験担当者に合図をしてください。
- ・下敷きは、机の不良などで特に許されたもの以外は使用してはいけません。
- ・計算用具(そろばん・計算機能のみの電卓など)を使用してもかまいません。
- ・解答用紙は、持ち帰りできませんので白紙の場合でも必ず提出してください。
解答用紙を持ち帰った場合は失格となり、以後の受験をお断りする場合があります。
- ・**簿記上本来赤で記入する箇所も黒で記入すること。**
- ・**解答は、必ず解答用紙に記入してください。**
- ・**金額には3位ごとのカンマ「,」を記入すること。**
ただし、位取りのけい線のある解答用紙にはカンマを記入しないこと。
また、カンマ「,」(数字の下側に左向き)と小数点「.」は明確に区別できるようにすること。

主 催 公益社団法人 全国経理教育協会
後 援 文 部 科 学 省
日 本 簿 記 学 会

$$\left(\begin{array}{c} \text{ } \\ \text{ } \\ \text{ } \end{array} \right) \quad \left(\begin{array}{c} \text{ } \\ \text{ } \\ \text{ } \end{array} \right)$$

問5

補助部門費配賦後の金額

鍛造部門〔 〕円 加工部門〔 〕円

問6

鍛造部門

予算差異〔 〕円 操業度差異〔 〕円

加工部門

予算差異〔 〕円 操業度差異〔 〕円

問題2

問1

購入原価・材料A〔 〕円 購入原価・材料B〔 〕円

材料副費配賦差異〔 〕円

問2

購入原価・材料A〔 〕円 購入原価・材料B〔 〕円

問3

問題3

意味

--

種類

					能	力
--	--	--	--	--	---	---

					能	力
--	--	--	--	--	---	---

平	均			
---	---	--	--	--

期	待					
---	---	--	--	--	--	--

解答は、すべて解答用紙に記入して必ず提出してください。

第219回簿記能力検定試験 問題用紙

上 級 管理会計

(令和7年7月13日施行)

注 意

- ・試験開始の合図があるまで、問題用紙は開かないでください。
- ・この試験の制限時間は、原価計算及び管理会計をあわせて1時間30分です。
- ・解答は、問題の指示にしたがい、すべて解答用紙の指定の位置に記入してください。
- ・解答用紙の会場コードは、試験担当者が指示した6桁の数字を頭の0(ゼロ)を含めてすべて書いてください。
受験番号は右寄せで書いてください。左の空白欄への0(ゼロ)記入は不要です。
受験番号1番の場合、右寄せで1とだけ書いてください。
受験番号90001番の場合、90001と書いてください。
- ・**氏名を必ず記入してください。**
受験番号・氏名を記入していない場合は、採点の対象とならない場合があります。
- ・印刷の汚れや乱丁、筆記用具の不具合などで必要のある場合は、手をあげて試験担当者に合図をしてください。
- ・下敷きは、机の不良などで特に許されたもの以外は使用してはいけません。
- ・計算用具(そろばん・計算機能のみの電卓など)を使用してもかまいません。
- ・解答用紙は、持ち帰りできませんので白紙の場合でも必ず提出してください。
解答用紙を持ち帰った場合は失格となり、以後の受験をお断りする場合があります。
- ・**簿記上本来赤で記入する箇所も黒で記入すること。**
- ・**解答は、必ず解答用紙に記入してください。**
- ・**金額には3位ごとのカンマ「,」を記入すること。**
ただし、位取りのけい線のある解答用紙にはカンマを記入しないこと。
また、カンマ「,」(数字の下側に左向き)と小数点「.」は明確に区別できるようにすること。

主 催 公益社団法人 全国経理教育協会
後 援 文 部 科 学 省
日 本 簿 記 学 会

第219回簿記能力検定試験問題

上級 管 理 会 計

解答は解答用紙に

問題 1 全経精密機械工業では、製品 A と製品 B について品質原価計算を行っている。＜資料＞にもとづき、問 1 と問 2 に答えなさい。

＜資料＞

1. 全経精密機械工業における品質原価計算に関わるデータ

	製品 A	製品 B
生産・販売量（個）＊	1, 000	2, 400
販売価格（円／個）	600, 000	420, 000
製品 1 個当たり変動費（円／個）	250, 000	200, 000
品質改善設計時間（時間）	1, 000	600
製品 1 個当たり検査時間（時間）	1. 00	0. 50
製品の再作業率	5 %	10%
製品 1 個当たり再作業費（円／個）	280, 000	180, 000
販売済み製品の修理率	10%	5 %
製品 1 個当たり修理費（円／個）	200, 000	100, 000
品質不良起因の推測逸失販売量（個）**	100	200

＊期首・期末に製品・仕掛品の在庫はない。

**外部失敗コストには逸失利益も含める。

2. 1 時間当たり設計費 18, 000 円／時 1 時間当たり検査費 5, 000 円／時

問 1 ＜資料＞にもとづき、全経精密機械工業での品質原価について、予防コスト、評価コスト、内部失敗コスト、外部失敗コスト、品質原価合計を求めなさい。

問 2 全経精密機械工業では、品質管理活動の改善を行うことにし、二つの案を考えた。第 1 案は品質改善設計により多くの時間をかけるというものであり、第 2 案は検査時間をより多くかけるというものである。

第 1 案では、製品 A に 1, 300 時間、製品 B に 740 時間の品質改善設計を行う。その結果、製品の再作業率が製品 A で 4 %、製品 B で 9 % になり、販売済み製品の修理率が製品 A で 7 %、製品 B で 3 % になると見込まれる。また、品質不良起因の推測逸失販売量は製品 A で 80 個、製品 B では 150 個になると見込まれる。

第 2 案では、製品 1 個当たりの検査時間を製品 A では 1. 2 時間／個、製品 B では 0. 6 時間／個とする。その結果、製品の再作業率は製品 A で 4 %、製品 B で 8 % となり、販売済み製品の修理率が製品 A で 8 %、製品 B で 4 % になると見込まれる。また、品質不良起因の推測逸失販売量は製品 A で 90 個、製品 B で 140 個になると見込まれる。

以上の条件から、第 1 案と第 2 案それぞれの品質原価を計算し、どちらの案を採った方が有利か、解答用紙の文章を完成させなさい。

問題2 全経エンジニアリングでは共通の生産設備を用いて製品Xと製品Yを製造・販売している。次の<資料>にもとづき、問1から問3に答えなさい。

<資料>

1. 月間の製品Xの需要の上限は400個、製品Yの需要の上限は600個である。

2. 原材料の単位当たり消費量は以下のとおりである。

	製品X	製品Y
原材料A	2 kg／個	1 kg／個
原材料B	1 kg／個	1 kg／個

なお、月間の原材料Aの調達上限は1,000kg、原材料Bの調達上限は700kgである。

3. 原材料Aの単位当たり価格は150円／kg、原材料Bの単位当たり価格は80円／kgである。また、その他の加工費（変動費）は、製品Xと製品Yとともに250円／個である。

4. 月初と月末に製品および仕掛品在庫はなく、生産したものはすべて販売される。

問1 製品Xの販売単価が1,130円／個、製品Yの販売単価が880円／個の場合に利益が最大となる製品の組み合わせとそのときの貢献利益の合計額を答えなさい。

問2 製品Xの販売単価が930円／個、製品Yの販売単価が880円／個の場合に利益が最大となる製品の組み合わせとそのときの貢献利益の合計額を答えなさい。

問3 製品Xの販売単価が1,130円／個、製品Yの販売単価が680円／個の場合に利益が最大となる製品の組み合わせとそのときの貢献利益の合計額を答えなさい。

問題3 次の文章のカッコに当てはまる適切な言葉を解答欄に記入しなさい。

(1) 原価企画では、製品の目標原価の設定にあたって、製品の予定売価から目標利益を控除することで求める方法がある。このようにして設定された目標原価を（ ア ）という。一方、現行の設計や技術をもとに、改善点などを考慮に入れて個々の機能や部品ごとの目標原価を積み上げて製品の目標原価を設定する方法もある。このようにして設定された目標原価を（ イ ）という。

(2) マテリアルフローコスト会計では、加工費の多くは（ ウ ）に分類される。

(3) ライフサイクル・コストリングでは、さまざまな（ エ ）の関係を検討し、ライフサイクル・コストが最小となる代替案を探索する。たとえば、ユーザーの視点で見ると初期投資コストと運用・保守のコストにはこの（ エ ）の関係がある。

解答は、すべて解答用紙に記入して必ず提出してください。

第219回簿記能力検定試験 解答用紙

上 級 管理会計

(令和7年7月13日施行)

注 意

- ・試験開始の合図があるまで、問題用紙は開かないでください。
- ・この試験の制限時間は、原価計算及び管理会計をあわせて1時間30分です。
- ・解答は、問題の指示にしたがい、すべて解答用紙の指定の位置に記入してください。
- ・解答用紙の会場コードは、試験担当者が指示した6桁の数字を頭の0(ゼロ)を含めてすべて書いてください。
受験番号は右寄せで書いてください。左の空白欄への0(ゼロ)記入は不要です。
受験番号1番の場合、右寄せで1とだけ書いてください。
受験番号90001番の場合、90001と書いてください。
- ・**氏名を必ず記入してください。**
受験番号・氏名を記入していない場合は、採点の対象とならない場合があります。
- ・印刷の汚れや乱丁、筆記用具の不具合などで必要のある場合は、手をあげて試験担当者に合図をしてください。
- ・下敷きは、机の不良などで特に許されたもの以外は使用してはいけません。
- ・計算用具(そろばん・計算機能のみの電卓など)を使用してもかまいません。
- ・解答用紙は、持ち帰りできませんので白紙の場合でも必ず提出してください。
解答用紙を持ち帰った場合は失格となり、以後の受験をお断りする場合があります。
- ・**簿記上本来赤で記入する箇所も黒で記入すること。**
- ・**解答は、必ず解答用紙に記入してください。**
- ・**金額には3位ごとのカンマ「,」を記入すること。**
ただし、位取りのけい線のある解答用紙にはカンマを記入しないこと。
また、カンマ「,」(数字の下側に左向き)と小数点「.」は明確に区別できるようにすること。

主 催 公益社団法人 全国経理教育協会
文 部 科 学 省
後 援 日 本 簿 記 学 会

問題 2

問 1

製品X [] 個 製品Y [] 個 貢献利益合計 [] 円

問 2

製品X [] 個 製品Y [] 個 貢献利益合計 [] 円

問 3

製品X [] 個 製品Y [] 個 貢献利益合計 [] 円

問題 3

- (1) ア () イ ()
- (2) ウ ()
- (3) エ ()